

断想：2009 年 3 月の韓国

儀我 壮一郎

目 次

まえがき

I 朴正熙政権と金大中・金泳三

II 「新軍部」の政権掌握・「三金」弾圧と「光州事件」

III 韓国政治の地域主義と「一盧三金」

まえがき

1992 年 12 月 13 日の大統領選挙で、金泳三（997 万票）が、金大中（804 万票）、鄭永周（388 万票）両候補をおさえて、第 14 代大統領となった。その直後の 1993 年 3 月、専修大学社会科学研究所の第 1 回海外合宿調査（韓国）が始まった。団長は麻島昭一氏。

鄭永周が、有力財閥の現代グループの総帥であったことから、私は、韓国の財閥とその政治活動への関心を深めた。また、交流した檀国大学の教授たちのなかに、安重根記念館の館長が含まれていたのも、安重根に関する理解を深めたいと望んだ。帰国後この 2 つの関心事を中心に、小稿をまとめ『社会科学研究所月報』（1993 年 8 月号）に発表することができた。訪韓中、いたるところで、第 13 代盧泰愚大統領に対する批判と、金泳三新大統領に対する絶大な期待を痛感したが、昨日のことのようである。

しかし、現実には、今回の訪韓までに、16 年の歳月が経過し、韓国も、日本も、そしてアジア諸国と全世界も、予期せぬほどの激動の渦中にある。2008 年 9 月のリーマン・ショック以来の金融危機・世界同時恐慌のなかで、政治・外交・軍事をめぐる新しい動きがとりわけ注目される。欧米のいくつかの主要金融機関の国有化、GM の国有化、公的資金の注入などに見られる「大きな政府」への転換、保護主義の台頭、北朝鮮・イランなどの核開発への各国政府の対応、オバマ大統領の「核兵器のない世界」を目ざすとする 2009 年 4 月のブラハでの演説、北朝鮮のミサイル発射、核実験などなど、いたるところに、新しい局面が生まれつつある。

本稿では、韓国の政治について、1980 年 5 月の「光州事件」前後の複雑な動向を検討するた

めに、朴正熙、全斗煥、盧泰愚、金泳三、金大中、盧武鉉、李明博各大統領の足跡に注目したい。

戦後日本においても、諸政党の名称変更、合同と分裂、新政党の結党および各政党間の合従連衡などは、かなり複雑である。しかし、韓国では、人口が日本の2分の1以下であるなかで、政党の数においても、その離合集散の激しさにおいても、日本を大きく上回っている。米軍政期、第1共和国、第2共和国、第3共和国、第4共和国、第5共和国、そして現在の第6共和国にいたる諸政党の変遷図は、木村幹『韓国現代史 大統領たちの栄光と蹉跌』（中公新書、2008年8月）の254-255ページに収載されている。なお、本稿の歴史的経過に関する叙述は、頁数を示していないが、大部分、同書に依拠しているので、この場をかりて、木村幹氏に感謝する。

2009年3月の訪韓は、第16代盧武鉉大統領から、第17代李明博大統領に交代した直後であり、帰国後に盧武鉉前大統領自殺（？）の報道に驚くという経緯である。

李明博は、現代グループの現代建設社長を経てソウル市長となり、2007年12月の大統領選挙に立候補し、鄭東泳（617万票）、李会昌（355万票）、文国鉉（157万票）の3候補を上回る1149万票を獲得して第17代大統領となった。

ところで、1948年8月15日の「大韓民国」独立宣言以来、大統領となった人物は次の10名であり、朝鮮民主主義人民共和国の政権は金日成・金正日の二名が掌握してきたのである。日本の首相の数と比較する必要もあるが、ここでは省略する。

- ①李承晩（1887年生れ）：初代、第2代、第3代
- ②尹潽善（1897年生れ）：第4代
- ③朴正熙（1917年生れ）：第5代、第6代、第7代
- ④崔圭夏：第8代
- ⑤全斗煥：第9代、第10代、第11代、第12代
- ⑥盧泰愚：第13代
- ⑦金泳三（1928年生れ）：第14代
- ⑧金大中（1924年生れ）：第15代
- ⑨盧武鉉（1946年生れ）：第16代
- ⑩李明博（1941年生れ）：第17代

このことを前提として、以下、本論に入る。

I 朴正熙政権と金大中、金泳三

1961年5月16日の軍事クーデターによって成立した朴正熙政権をきびしく批判していた金

大中が、1973年8月8日東京のホテルから拉致され、海上で暗殺寸前の危機に直面したが、国際的な圧力のもとで、九死に一生を得た。8月13日午後10時過ぎ、金大中は自宅の前で解放された。しかし、8月16日から、軟禁状態に置かれた。韓国中央情報部が、この事件の主役とされる。主権を侵害された日本政府は、「事件の真相の解明と、金大中の再来日による原状回復」の二原則をかかげて韓国政府と交渉し、「政治決着」した。朴正熙大統領は当時の田中角栄首相に親書を渡して謝罪した。しかし、金大中の軟禁は、その後も継続したままとなった。

1974年4月、新民党の柳珍山総裁が死去。曲折を経て、45歳の金泳三が次の総裁となり、朴政権と与党に対する批判の「鮮明闘争」路線を主張し、金大中の政治活動の自由と海外旅行の許可、中央情報部の解体などを、朴政権に要求した。

朴正熙は、次第に窮地に追いこまれた。1974年8月15日には、在日朝鮮人文世光による朴正熙暗殺未遂事件と文世光の流れ弾による陸英修夫人の死は、朴正熙に深刻な衝撃を与えた。その後、車智澈警護室長が朴正熙に取り入って「権力代行者的地位」を占め、中央情報部長金載圭との対立が深まるなかで、ついに、1979年10月26日、金載圭が、朴正熙と車智澈を射殺するにいった。

その直前には、金泳三の国会からの除名に抗議する釜山大学の学生たちのデモが発生、デモは釜山全域から馬山にも及び、朴正熙政権は、釜山に戒厳令、馬山・昌原一帯に衛戍令を発動した。「釜馬抗争」は一触即発の状況にあり、金載圭は、10月26日、車智澈から、この事態悪化の責任をきびしく追及されていたのである。

ちなみに、若き弁護士盧武鉉は、この釜山闘争には関心を示さなかったが、1980年に全斗煥による学生運動弾圧事件の一つである「釜林事件」に関与して、急速に政治に目覚めるのである。

Ⅱ 「新軍部」の政権掌握・「三金」弾圧と「光州事件」

1979年10月26日の朴正熙大統領暗殺事件の直後、事件の合同捜査本部長となったのは、全斗煥国軍保安司令官であった。11月6日、事件の全貌が発表され、12月6日、崔圭夏が統一主体国民会議によって正式に大統領に選出された。1980年2月29日には、金大中を含む684名の公民権回復が行われた。金泳三、金大中、金鍾泌が次代の政治家として注目され、いわゆる「三金時代」の到来が叫ばれた。各地では、崔圭夏の退陣と早期民主化を求めるデモが頻発し、騒然たる事態となった。

1980年5月17日夜、戒厳令が、済州島を含む全国に拡大され崔圭夏大統領が戒厳司令官となった。全斗煥らは、崔圭夏の裁可を受けて、金大中をはじめとする政治家、学生運動指導者、

労働組合幹部を一斉に逮捕した。同時に、金鍾泌民主共和党総裁や李厚洛元中央情報部長など、旧政権の幹部も不正蓄財容疑で連行した。全斗煥・盧泰愚などの「新軍部」が、政治の実権を掌握しはじめたのである。

金大中の逮捕は、その政治的基盤である全羅南道、光州で、彼の即時釈放を求める市民・学生たちの蜂起をもたらし、「光州事件」の開始である。5月18日からの10日間、光州では、空挺特戦部隊と警察部隊による徹底した鎮圧活動が行われた。死者240名、行方不明者409名、負傷者5019名と数えられている。

5月20日には、政権への批判を強めていた金泳三も自宅軟禁され、「三金時代」は「三金」の逮捕・軟禁などによって終りを迎えた。また、現代建設社長李明博も、中央情報部の地下室に連行され、現代グループの総師鄭周永による「三金」への政治資金提供が、容疑内容とされた。李明博は、容疑を否認し続けた。しかしその後も、「新軍部」と現代財閥との関係は、円滑ではなかった。

「光州事件」は、「新軍部」にとって、金大中への処罰を正当化する絶好の口実となった。1980年7月4日、戒厳司令部は「金大中一党の内乱陰謀事件の捜査結果」を発表。金大中は、「光州事件」の発端となった全南大学及び朝鮮大学生の街頭デモを引き起こした、とする。金大中は、①内乱陰謀、②内乱煽動、③戒厳法違反、④戒厳法違反教唆、⑤国家保安法違反、⑥反共法違反、⑦外国為替管理法違反の7つの罪に問われた。

1980年9月17日の金大中に対する戒厳軍普通軍法会議の判決は死刑。戒厳高等軍法会議への控訴は11月3日棄却。金大中は、11月8日、大法院に上告した。この裁判に対する関心は、日本、ドイツなど海外で高まりつつあった。

「新軍部」側は、1981年1月18日、金大中に、減刑嘆願書を提出せよとの説得を行った。金大中はそれに応じた。大法院は1月23日、死刑判決を下したが、韓国政府は即座に臨時閣議を開き、無期懲役に減刑した。1981年3月2日、大統領に就任した全斗煥は、恩赦により、懲役20年に減刑した。翌1982年の年末、アメリカへの出国を説得された金大中は、李姫鍋夫人の意向もあり、結局出国を決意し、2度目の亡命生活がはじまる。

金泳三は、当時、どのように対応していたか。

「光州事件」開始直後の5月20日に金泳三は軟禁され、1981年4月30日まで継続した。金泳三は、その後、「民主山岳会」を組織し、登山しながら政治活動を行った。

1982年5月31日、金泳三に対する第2次軟禁が実施された。1983年5月16日、金泳三は「国民へ送る言葉」を発表し、「光州事件」3周年の5月18日を期して、全斗煥政権に抗議する無期限断食を敢行。5月24日にはワシントン滞在中の金大中も金泳三への連帯の意志を表明した。この23日間に及ぶ断食によって、軟禁は解除された。金泳三と金大中は、1983年8月15日、

「8・15 共同宣言」を連名で発表。1985 年 1 月、新韓民主党の結党にいたる。「新軍部」は、この新党の準備期間を少なくするために、第 12 代国会議員選挙を、繰り上げて、1985 年 2 月 12 日と決定。しかし、投票日 4 日前に金大中が帰国したこともあって勢いを増した新韓民主党は善戦、第 2 党となった。

さて、決起した側からの「光州事件」の真相については、2009 年 3 月 16 日、光州の全南大学と「5・18 記念館」で詳細に見聞し、深く感銘を受けた。記念に頂戴した版画の迫力は圧倒されるほどである。

また、犠牲者の墓地（土葬）2 ヲ所を訪ね、哀悼の意を表することができた。

私は、全南大学の教授たちと同席のさい短かい挨拶の機会に、次のような感想を述べた。

「2009 年の日本では、天童荒太の『悼む人』が直木賞に選ばれました。事件・事故で亡くなった人それぞれの生涯を想起し哀悼の意を表する小説です。また、本木雅弘主演の『おくりびと』が、アカデミー賞の外国語映画部門賞を受賞しました。死者を鄭重に綺麗な姿にととのえて納棺し、天上におくり出す『おくりびと』を描いた名作です。

ここ光州で、犠牲者たちの墓地に参詣した私共は、『悼む人』『おくりびと』の誠実な心情を思い出しながら、哀悼の敬意を表した次第です……。」

「光州事件」は韓国民主化の画期的道標である。

Ⅲ 韓国政治の地域主義と「一盧三金」

現在の韓国政治の日本と異なる大きな特徴は、強固な地域主義の存在である。三国志の魏・呉・蜀の間の対立と協調などを連想させる複雑な側面も見逃せない。

1987 年の大統領選挙は、地域主義の実態を明示するものであった。この選挙の 4 人の候補は、それぞれ、自らの生まれ故郷を最も確実な基盤としていた。次のとおりである。

盧泰愚（民主正義党）＝慶尚北道

金泳三（統一民主党）＝慶尚南道

金大中（平和民主党）＝全羅道

金鐘泌（新民主共和党）＝忠清道

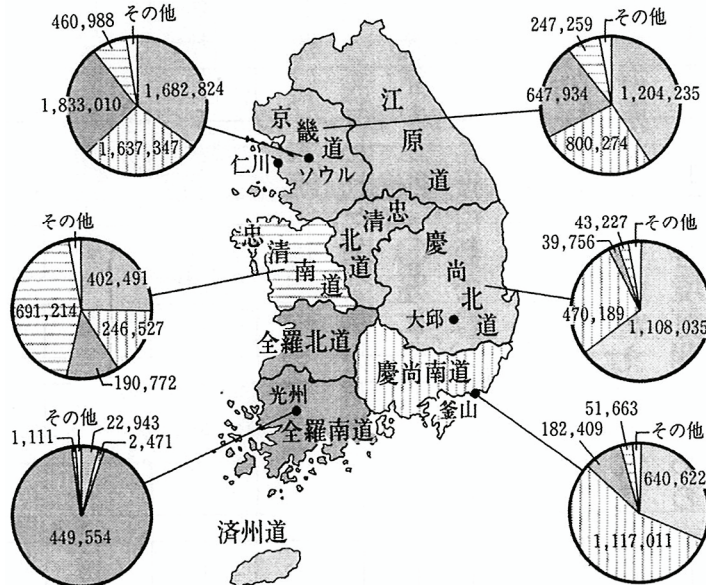
選挙結果と各地域別の各候補の得票率は、表 1 のとおりである。金泳三と金大中が、候補一本化に失敗したため、「新軍部」の盧泰愚候補が「漁夫の利」を占めて当選し、第 13 代大統領となった。

1990 年 1 月には、民主正義党・統一民主党・新民主共和党の 3 党合同が宣言され、2 月、民主自由党が結成された。他方、金大中らの平和民主党は新民主連合党となり、李其沢・盧武鉉

らの民主党と合併して民主党となった。

表 1 1987 年大統領選挙と地域主義

盧泰愚	金泳三	金大中	金鍾泌
8,282,738	6,337,581	6,113,375	1,823,067
35.9%	27.5%	26.5%	7.9%



(出所) 木村幹『韓国現代史』
(中公新書、2008 年) 199 ページ

1992 年 12 月の大統領選挙では、金泳三は巨大与党・民主自由党の大統領候補となり、前述のとおり、997 万票を獲得し、金大中（民主党）の 804 万票、鄭周永（統一国民党）の 388 万票をおさえて当選、第 14 代大統領となった。金斗煥・盧泰愚元大統領は逮捕され有罪判決を受けるが、現在は「自由の身」となっている。その経過は省略する。

1997 年 12 月の大統領選挙では、金大中（新政治国民会議）が 1032 万票で、李会昌（ハンナラ党）の 993 万票、李仁済（国民新党）の 492 万票を圧倒して、第 15 代大統領となった。

2002 年 12 月の大統領選挙では、盧武鉉（民主党）が 1201 万票で第 1 位となり、李会昌（ハンナラ党）の 1147 万票、植永吉（民主労働党）の 957 万票をおさえて第 16 代大統領となった。盧武鉉の場合、地域主義を克服する努力が評価されたことが注目される。

2007 年 12 月の大統領選挙における李明博（ハンナラ党）の当選は、前述のとおりである。

ところで、盧武鉉前大統領の2009年5月の自殺(?)以来、「韓国」の政治地図が揺れている。死去直後の世論調査では、野党・民主党の支持率が30%に近づき、20%台半ばにとどまった与党・ハンナラ党を上回った。5年ぶりの逆転だ。／あわてたのは現政権だけではない。『左のウインカーを点滅させながら右折した』と言って盧武鉉政権を批判してきた左派陣営も、当惑の色を隠せないでいる」(洪世和『人間盧武鉉』に戸惑う左派『朝日新聞』2009年7月1日付、夕刊)。人々は、とくに、人権派弁護士出身の政治家として、地域対立解消のために地盤のない選挙区から立候補して落選するなど、原則に忠実だった「パポ(馬鹿=愛すべき愚か者)盧武鉉」を回想している。権威的な李明博大統領とは対照的な存在、脱権威の象徴として(同上による)。

ここで、「三金」すなわち、金泳三、金大中、金鐘泌の重要な政治的動向のうち、次の諸点を想起しておこう。

①金泳三は、1990年、野党・統一民主党を率いて、あえて与党との大合同に踏み切り、このことによって、1992年の大統領選の勝利の基盤をつくった。金鐘泌も、野党を率いてこの大合同に参加した。

②金大中は、1997年の大統領選挙にさいして、多年の政敵金鐘泌と提携することによって、辛勝することができた。

③2009年8月10日、金泳三元大統領はソウル市内の病院で闘病中の金大中元大統領を見舞い、「歴史的和解」を果たした(2009年8月10日付、各紙夕刊)。金大中は8月18日死去。

2009年、日本も、各種の地方選挙、東京都議選、衆議院議員選挙(2009年8月30日)など、「政治不信」が強まる中で、政治への関心が高まり、新しい局面が生まれつつある。韓国の「光州事件」からも、多くを学ぶべき現状である。